

雲雀丘学園と鳥取大学の教育連携事業の概要とその成果

○田中俊行（鳥取大学産学・地域連携推進機構）

1. はじめに

雲雀丘学園は、「孝道」を基本理念とする、兵庫県宝塚市にある幼稚園・小学校・中学校・高等学校から成る私立の学校法人（理事長：代々サントリー経営者）であり、「人間教育の充実」と「学力の向上」を両立させた一流の学園を目指している。鳥取大学（以下、本学と略す）は、教育研究理念に「知の実践の融合」を掲げ、「人間力を根底に置いた教育」を軸としており、雲雀丘学園の教育方針と合致している。

雲雀丘学園中学校・高等学校（影浦正二校長）ではキャリア教育の充実を目指し、高校生を対象にして、大学の講義を体験する 1 Day College や、高大連携講座等の事業を行なってきた。同校には、国際化学オリンピックの日本代表候補を多数育成した実績を残している、本学卒業生の谷川孝彦教諭が勤務している。過去に、筆者と谷川教諭は共に本学医学部に教員として在籍し、研究、教育等を通じて 30 年以上の交友関係を築いている。これが縁で、筆者は平成 23（2011）年より同校で 1 Day College の講師を務めている。

影浦校長からの「本物の学び」に繋がる教育の実現という要請により、筆者は谷川教諭と協力して、平成 24 年度より、同学園の中高生を対象とした研究体験型教育プロジェクト事業「雲雀丘学園サイエンス・キャンプ in 鳥取大学」¹⁾（平成 26 年度は「雲雀丘学園 Academic Summer in 鳥取大学」と改名）を実現させた。筆者は、この事業を通して、本学の人間力養成教育を発信することにより、関西地区での本学の評価の向上を目指している。以下に、この事業の概要とその成果を報告する。

2. 事業実施概要

この事業計画は、平成 24（2012）年 5 月、雲雀丘学園中学校・高等学校の影浦校長、及び谷川教諭が本学を訪問し、本学学長にこの事業への協力依頼を行ない、了承を得て始まった。この事業は、本学の指導教員が提示した研究テーマについて、同校の中・高校生に体験希望を募り、同校の夏休み期間の 8 月初旬に、2 泊 3 日の日程で、選抜された生徒が本学研究室で教員および大学院生から指導を受け、研究体験をする事業である。平成 24 年、25 年の実施概要については、既に本会の第 5 回研究・事例発表会で報告している²⁾。今回は、平成 26 年 8 月 4 日～6 日に実施した、この事業の概要について記す。

今年度も昨年度に引き続き、鳥取キャンパス（地域学部・農学部・工学部）、米子キャンパス（医学部・生命機能研究支援センター）で、体験生徒 20 名を対象にして実施すると共に、新しく文系の研究テーマを加えた。指導教員および研究テーマは、表 1 の通りである。

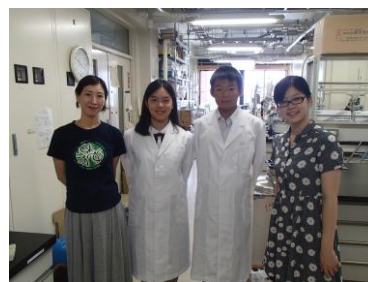
表 1 雲雀丘学園 Academic Summer in 鳥取大学 2014 の指導教員と研究テーマ

班	指導教員	所属部署	研究体験テーマ	班	指導教員	所属部署	研究体験テーマ
1	岡本芳晴 教授	農学部共同獣医学科 臨床獣医学講座	血液を調べる	6	難波栄二 センター長 & 足立香織 助教	生命機能研究支援センター	遺伝子実験を体験しよう
2	原 豊 准教授 & 田川公太郎 准教授	大学院工学研究科機 械宇宙工学専攻 & 地域学部地域環境学 科循環型環境学講座	風車工学入門。風車を作 って実験してみよう！	7	久郷裕之 教授	大学院医学系研究科機能再 生医科学専攻生体機能医工 学講座	細胞から染色体までのミク ロの世界を覗いてみよう！
3	寶来佐和子 准教授	地域学部地域環境学 科循環型環境学講座	毛髪と食品の水銀分析	8	木場智史 講師	医学部医学科機能形態統御 学講座統合生理学分野	神経活動を見てみよう
4	石谷孝二 副学部長	地域学部附属芸術文 化センター	野外彫刻入門 —観賞と制作—	9	景山誠二 教授	医学科感染制御学講座ウイ ルス学分野	「見えない世界を見る」 ウイルスの物語
5	山下博樹 教授	地域学部地域政策学 科地域計画学分野	まちなか課題発見フィールド ワーク	10	三浦典正 准教授	医学科病態解析医学講座薬 物治療学分野	癌細胞を解析する

鳥取キャンパスでの日程（3日目は省略）、及び研究場所でのスナップ写真を以下に示す。

◆8月4日(月)

- 8:00 雲雀丘学園をバスで出発
- 10:50頃 鳥取大学湖山キャンパスに到着
- 11:00 記念撮影（鳥取大学広報センター前、看板の横）
- 11:10 「雲雀丘学園 Academic Summer in 鳥取大学」ガイダンス（広報センターC室）
- 11:40 昼食(学長、指導教員と共に)（広報センターD室）
- 12:10 宿舎(湖山クラブ)に行き、身辺整理（12:40頃 各担当教員の研究室に出発）
- 13:00～16:40 各研究室で研究体験
- 16:50 農学部玄関前に集合
- 17:00～18:00 菌類きのこ遺伝資源研究センターの見学と説明（中桐昭センター長）
- 18:10 夕食（鳥取大学食堂「マーレ」）
- 19:00 湖山クラブに戻る。
- 19:00～22:00 入浴、自由時間(テレビ等)
- 22:00 消灯・就寝



◆8月5日(火)

- 7:00 起床
- 7:00～8:00 洗顔、トイレ、着替え等の身支度
- 8:30 朝食（鳥取大学食堂「マーレ」）
- 9:00～15:20 各研究室で研究体験（途中に、適宜昼食）
- 15:30 広報センター前に集合、公用車で乾燥地研究センターに向かう。
- 16:00～17:00 乾燥地研究センターの見学・説明（生物生産部門 辻本 壽教授）
- 17:00～17:30 夕食（乾燥地研究センター）(その後、砂の美術館へ)
- 18:00～18:30 砂の美術館の展示見学
- 18:40～19:20 鳥取砂丘散策、漁火見学
- 19:50 鳥取大学到着
- 20:00～22:00 入浴、自由時間(テレビ等)
- 22:00 消灯・就寝



3. 成果

この事業の成果を評価するため、平成 23～26 年度本学入試に対する、雲雀丘学園高等学校からの志願・受験・入学者調査を行った。

表 2 より、志願者、受験者、入学者ともに明らかに増加している。特に、平成 25 年度から平成 26 年度に、志願者数は 2.4 倍、受験者数は 2.4 倍、入学者数は 7.0 倍に増加した。この顕著な増加は、主に、この事業の効果であると考えている。

表 2 雲雀丘学園高等学校の本学入試データ調査

入試年度	志願者数	受験者数	入学者数
平成23年度	1	0	0
平成24年度	11	6	1
平成25年度	11	8	1
平成26年度	26	19	7

他に、同校からの依頼により、筆者は、平成 23 年から今年度まで継続して、1 Day College に本学教員（筆者を含む）を講師として派遣しており、この実績も、この成果にいくらか寄与していると考えている。

4. 終わりに

この事業は、参加した生徒、保護者から好評を得て、参加定員に対して 2 倍以上の体験希望がある。この事業の成功には、筆者と谷川教諭との信頼関係を核とした、本学と同校との信頼に基づく協力関係の構築にあると考えている。今後は、同校の要望、信頼に応えるよう、更に、この事業をより質の高いものに洗練し、継続していくことで、人間力の養成を目指す、本学の教育研究ブランド力の強化につなげていきたいと考えている。

【参考文献】

- 1) 田中俊行、谷川孝彦：「雲雀丘学園サイエンス・キャンプ in 鳥取大学～中高生を対象にした研究体験型教育プロジェクトの紹介～」，大学教育研究年報，第 19 号，pp. 43-57，2014.
- 2) 田中俊行、菅原一孔：「研究体験型高大連携事業の紹介～雲雀丘学園サイエンス・キャンプ in 鳥取大学～」，産学連携学会関西・中四国支部第 5 回研究・事例発表会，2013.

(筆者連絡先：TEL：0857-31-5999，E-MAIL：tosshy@c.jrd.tottori-u.ac.jp)